




月例日本映画会

2015年9月

2015年10月

The University of Auckland	The University of Waikato	Massey University
General Library Building Lecture Theatre 109-B15 5 Alfred St, Auckland CBD	Lecture Theatre L3 Gate 1 Knighton Road Hamilton	The Round Room, Atrium Building Albany Campus, Gate1, Albany Expressway (State Highway 17)
		
http://www.library.auckland.ac.nz/gmap/general_gmap.asp	http://www.waikato.ac.nz/contacts/map/	http://www.massey.ac.nz/massey/student-life/about-our-campuses/albany-campus/maps-and-transport/maps-transport-and-parking.cfm

お問い合わせ
オークランド日本国総領事館

Tel: 09-303-4106 Email: pr@ac.mofa.go.jp www.auckland.nz.emb-japan.go.jp

入場料無料 予約不要 英語字幕付

9月

夢と狂気の王国

マッセイ：9月7日(月) 18:30 / ワイカト：9月17日(木) 19:00 / オークランド：9月24日(木) 19:30

監督：砂田麻美 2013年 Rating：PG 113分 キャスト：宮崎駿、鈴木敏夫、高畑勲、西村義明

ジブリにしのび込んだマミちゃんの冒険。

2013年、東京・小金井。碧々とした緑に身を隠すようにして、国民的アニメーションスタジオの“スタジオジブリ”は存在している。宮崎駿、彼の先輩であり師匠である高畑勲、そしてふたりの間を猛獣使いのごとく奔走するプロデューサー、鈴木敏夫。観客のみならず、世界の映画関係者やアニメーションの担い手たちにも多大な影響を与え続けてきたジブリの功績は、この天才たちによって紡がれ続けている。彼らの平均年齢は71歳。「風の谷のナウシカ」制作よりはるか以前、今から50年前に高畑と宮崎は出会い、鈴木が合流したのが30数年前。かくも長期に亘り苦楽を共にしてきた彼らの愛憎、そして創作の現場として日本に残された最後の桃源郷“スタジオジブリ”の夢と狂気に満ちた姿とは...

最新作の「風立ちぬ」(宮崎駿監督)と「かぐや姫の物語」(高畑勲監督)を制作中のジブリに広がる光と影に満ちた日常を通じて、繊細な表情までを捉え、スタジオの“今”を映し出した、砂田麻美監督。前作「エンディングノート」で数々の新人監督賞を受賞した彼女が伸びやかに描く、唯一無二のスタジオジブリの新たな物語。

10月

かぐや姫の物語

マッセイ：10月5日(月) 18:30 / ワイカト：10月15日(木) 19:00 / オークランド：10月29日(木) 19:30

監督：高畑勲 2013年 Rating：PG 137分 声：朝倉あき 高良健吾 地井武男 宮本信子

姫の犯した罪と罰。スタジオジブリが描く真実(ほんとう)のかぐや姫

竹の中から生まれ、すぐに成長して美しい娘に育ち、求婚者たちを次々と振ったあげく、満月の夜、迎えにきた使者とともに月へと去ってしまう——かぐや姫は いったい何のために地球にやってきて、なぜ月へ帰ることになったのか。この地で何を思い生きていたのか。かぐや姫の罪とは、その罰とはいったい何だったのか。本作『かぐや姫の物語』は、誰もが知る“かぐや姫”の筋書きはそのままに、誰も知ることもなかったその「心」を描くことで、日本最古の物語に隠された人間・かぐや姫の真実が描き出されました。

「アルプスの少女ハイジ」「赤毛のアン」「火垂るの墓」「おもひでぽろぽろ」...日本のアニメーションの礎を築いた伝説のアニメーション映画監督・高畑勲。その高畑監督14年ぶりの最新作。既成のアニメーション映画の枠組みを超えた作品を生み出し続ける高畑監督のこだわりによって、デジタルならではの技法を極限まで追求した作品となりました。

共催

オークランド日本国総領事館、国際交流基金
オークランド大学、ワイカト大学、マッセイ大学